



【大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ】
イリア&エミリア・カバコフ作品「棚田」 撮影:安斎重男

芸術の力を信じて

キドフラット・タヒミックというフィリピン人のドキュメンタリー映画作家がいます。アボン・小さな家という映画は世界的な評価を受けています。今はイファオというフィリピン山中の部族のなかで生活していますが、もともとはフィリピンの将来を背負うべき人物としてニューヨーク大学を出て、世界銀行に勤務していたエリートです。しかし彼はその道を選ばず、彼の言うところの「ふんどし族」という昔ながらの生活をするところに入りました。私は縁あって彼と仕事をし、国際シンポジウムで何度か同席もしました。例えばハリウッド映画が入ってくるのは時代の必然だと捉える目をもちながらも、そこ

点は次のようでした。「私たちは美術(文化)を通してつながっていたのではないか。イファオの人たちは棚田づくりを日本でやり、交流することを楽しみにしている。これを事務的な大変さを理由に断るのは、効率第一主義、更に言えば以前の植民地的やり方ではないか、云々」

の生活が壊滅することを止めようとしていく複眼の持ち主です。彼は今年第四回目を迎えた新潟県の中山間地で展開されている「大地の芸術祭」に、イファオの人たちと参加し、同じ棚田集落のよしみで棚田をつくりたいと応募してきました。その棚田こそ、自然と人間とのあいだをつなぐ美術だからです。しかし、

私たちがスタッフは頑張り、十六人のイファオのフンドシ族が来、それを喜んで(しかし大変だったろう)受け容れる集落があり、彼らは2週間頑張って素晴らしい作品をつくりました。今日の芸術祭の目玉のひとつとなるおおらかで、楽しく、かつ批評眼のあるもので、フィリピンとわれわれが似たシチュエーション

ことは簡単ではない。提案がやれる棚田もないし、受け容れる集落もない。16人もハダカ族が、小屋二軒分の材料ごとやってくるというのだから、入国だけでも面倒です。私はとらええず断りました。そこに、彼から長文の手紙がきました。私なりに思い出してみれば要

にあることを伝えにくれてもいるのです。タイトルは「戦後のラフレター」でした。集落が喜んで手伝い、飲み会をやり、人と人がつながったと言ってくれています。美術でなければこんなことはできません。損得のない、普通ありえない楽しさ、労働、バカバカしさが美術の力だと思います。

北川フラム「きたがわふらむ」
アートディレクター

1946年新潟県生まれ。東京芸術大学卒業。主なプロデュースとして、「アントニオ・ガウディ展」、「アハルト・ハイトク国際美術展」等。街づくりの実践では、「フアレス立川アート計画」、「越後妻有アートネットワーク整備構想」の総合ディレクター等多数。同プロジェクトによる「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ」は2001年の「ふるさとイベント大賞」のグランプリを受賞した。平成18年度芸術振興(芸術振興部門)、平成19年度国際交流奨励賞・文化芸術交流賞受賞。アートフロントギャラリー主宰、地中美術館総合ディレクター、新潟市美術館館長、女子美術大学教授等。

「蔵の街だより」第一回

とちぎ蔵の街美術館監視ボランティア 石川萬利子さん

美術館によっては監視員からお客様に話しかけてはならない、という所もあるようですが、私はお客様が関心を持たれている作品について、押し付けにならないようにさりげなくお話しするようにしています。...

「お気づきの点があったらおっしゃってください」とお伝えすると、出口から展示室までわざわざ戻って「良かったよ」と声をかけてくださる方もたくさんいらっしゃいます。...

また、意外に気付かれない方も多いので、美術館の建物(江戸時代の蔵)についてもさりげなくお話しするようにしています。柱や壁を眺めるお客様に「もう二〇〇年も経っているんですよ」と話しかけると、皆さん大変驚かれ、その後はお客様の方から色々な質問を頂きます。...



「チェコの絵本と原画展」

とちぎ蔵の街美術館―秋の特別企画展

― チャペック、トゥルンカから21世紀の作家まで ―

どこか懐かしさを感じさせる手作り感と、洗練されたデザインで人気を集めるチェコの絵本。こうしたチェコ絵本人気の先駆けとなったのは、人形アニメーションの分野でも世界的な名声を博したイジー・トゥルンカ。...

蔵の街アーツプロジェクト2009 「街を描いて自分の街をつくろう」

8月22日(土)、とちぎ蔵の街美術館の第一回目のWSが開催されました。年長から小五までの子どもたちが美術館に集合し、まずは街並みを探索。...



建てられた市役所別館などを見学しながらモチーフを探しました。制作では毛糸で作った渦巻きを並べて巴波川の流れを作り、そこにお気に入りの店や自分の考えた建物の絵を貼ったアクリル板20枚を並べました。...

夏の一角獣に

― 「五感のユートピア」を求めて

私どもは、畢竟、夏の一角獣なのだ。夏は、生の盛りであり、その猛り立つ灼熱に浮かされながら、私どもは皆、幻の一角獣を見る。...

い運動であり、主義主張、年齢、職業性差、国籍、あらゆる規制の境域を超えた、新たな共鳴共感のコミュニケーション、学びの共同体だった。...

七月末から始まった五日間の「山のシュレ」の最中、ずっと私は、パリのカルチエ・ラタンの一角に佇むクリューニ美術館、元のクリューニ修道院、現在の国立中世美術館の、奥まった最後の一室に鎮座する至宝、あの六枚の巨大なタピスリーの、六番目のものの前にある、小さな光の場所に、思いはつねに向いていた。

あの前記「イエスの生涯」の著者、二十世紀フランスを代表する小説家モーリヤックは、ローマ教皇を頂点とするカトリックの世俗的教会制度を、「見えない教会」と呼ぶことで、そこに本来内在する、キリストを中心とした、もうひとつの「霊的組織」の姿に、再び押し戻した。...

「言葉/身体/環境」という壮大なテーマで、私どもは、二回目の那須「山のシュレ」に集った。それは「五感のユートピア」を目指す、運動ではなく、私どもは、畢竟、夏の一角獣なのだ。夏は、生の盛りであり、その猛り立つ灼熱に浮かされながら、私どもは皆、幻の一角獣を見る。...

「見えない絆」で結ばれんことを。(註)変化し変容する驚異、というのは、畏敬する遠山一行さんのモーツァルト論から学んで、借りたもの。新見隆「い、みりゅう」武蔵野美術大学芸術文化学科学科教授、二期リゾット文化顧問、ギャラリー冊、アート・ビオトープ那須 顧問・キュレーター

Little Steps Creative English School for Children. リトルステップスは、感じる、聴く、みる、伝える を育てる子ども英語学校。言語力はもとより、感性、表現力、共創力を育む、子どもたちのための英語学校です。...

GUEST HOUSE 観季館. 「結び」をテーマとしたゆるやかな空間 一生に一度だから選びたい... 栃木県那須郡那須町高久乙上ノ林1859 Tel : 0287-78-7577 Fax : 0287-78-7578

那須高原の芸術祭

山のシュレ2009 終講

基調講演と豪華講師陣によるグラウンド対談で幕を開けた「山のシュレ2009」が、終了しました。今年のテーマは言葉・身体・環境。様々なレクチャー、ワークショップを通して「宇宙と生命、そして言葉の関係性」について共に考え、学び深めました。

また、期間中には「観季館のバー」がオープン、週末には「3人の名シェフ」による1日限りの「レストラン」と交歓の場も広がり、さらに市場では、捕れたての鮎の塩焼き、そば打ち実演、地ビール、手作りアクセサリー、木工芸品など、那須ならではのユニークな店が並び、山のシュレを彩りました。

ワークショップレポート

WORK SHOP



「山のシュレ」陶芸・ガラス工房

空模様は移り気な今夏の那須高原。アート・ビオトープ那須では、陶芸とガラスのワークショップが開催され、毎回ワークショップを楽しみにされるリピーターや、熱心な受講生たちが集まりました。陶芸、ガラスとも、特別講師をお招きしての豪華な3日間でした。

陶芸工房は、プロダクトデザイナー 小松誠氏による「鑄込み技法」講座。石膏型に流動性のある土を流し込むこの方法は、陶芸教室では珍しい。そんな設備を持つアート・ビオトープ那須ならではの講座では、質問や歓声が多く上がりました。スポンジや布、紙などに土を染込ませたり、型から外したコップに振動を

加えて自由に歪ませたり、と目から鱗の技法も伝授。染込んだ土は、布や紙が消失しても焼成後まで残って面白い表情を見せてくれます。

一方、昨夏のシュレで制作した簡易溶解炉とは別に、本格的な溶解炉が備わったガラス工房では、高橋 慎彦氏を招いて、溶けたガラスを用いて行う、待望のホットワーク講座を開催。身体や野菜、身近なもので作った砂型に、真赤な熱いガラスが流れ込む様子は、なんとも神秘的。サンドキャスト、吹きガラスなど、盛り沢山の内容。溶解炉は毎日稼働中、爽やかな那須高原で本格的吹きガラスを学んでみてはいかがでしょうか。

【AB那須・安藤】

伊藤岳さんへ

ワークショップ便り

金恵貞

紫陽花が大きな珍珠玉のように咲いていた7月初め、那須はまだ梅雨の最中で木立の間を歩く自分の足取りが、まるで水の中のように重たく感じられた。私は、これまでずっと旅と陶芸を並行してきた。見知らぬ土地を踏み、新しい人に出会い、その土地の言語と新しい考え方を身につける中、その時そこで出来るやり方で自分の陶をつくった。

私の中には、常に「故郷」を想うノスタルジーがあるが、それが「生まれ育った場所」や「祖国」を想う郷愁でなく、もっともっと遠くの、先験的アーキタイプ（原型）への憧れであることに気づいてから、旅路は家路と変わらなくなった。

秋には、ガラス作家・伊藤岳さんがアートビオトープ那須のAIRを引き継がれる。紅葉を彩る秋風とガラスの炎が織りなす物語もまた危険に満ちた冒険となりそうで、なんだか羨ましい。

『スペクタクル・イン・ザ・ファーム』開催!!!

9月26日(土) 27日(日) 観季館・山水閣・どうぶつ王国 など

那須の牧場、旅館、カフェなどを会場に、ダンス、ファッション、演劇、音楽など様々なジャンルのアーティストが集まって巻き起こすスペクタクルイベント!

- 【参加アーティスト】
- EGO-WRAPPIN' AND THE GOSSIP OF JAXXIKEBANA
- 快快
- 阿部海太郎
- 黒磯高校吹奏楽部
- 鉄割アルバトrossケット
- オオルタイチ
- 康本雅子
- やくしまるえつこ (相対性理論ほか)
- 岡田利規 (チェルフィッチュ)
- 山崎ナオコ
- シアタープロダクツ and more!!



【公式ウェブサイト】 <http://spectacleinthefarm.com/>
【主催】 スペクタクル・イン・ザ・ファーム 実行委員会
【共催】 アート・フェスタ那須2009

阿部海太郎 「七石舞台の演奏会」

9月27日(日) 17:00開場 / 17:30開演
前売り 2,500円 / 当日 3,000円

King of Resortの名高い館の敷地にある「石と鏡」でできた野外ステージ。ピアノの響きが薄明りの自然の中に溶け込む... *オリジナル宿泊パックあり

お問い合わせ、お申込みは
スペクタクル・イン・ザ・ファーム 080-4177-6224

アート・ビオトープ那須AIRプログラム

2人目の作家伊藤岳氏、10月から滞在。

オランダ、ベルギー、ポルトガル各地での制作やワークショップを経験してきたガラス作家伊藤岳氏(東京在住)が、アート・ビオトープ那須にやってきます。

伊藤氏にとってのはじめての土地である那須で、制作のみならず地域の人や文化と交流しながら、築く「まなざし」からの発信を期待するところです。(ワークショップ&スライドレクチャーについて詳細は、P4イベント・インフォ参照)

時間は宝石。自然で遊ぶ、素材に触れる、カジュアルなステイを楽しむホテル

Art Biotop 那須

栃木県那須郡那須町高久乙道上2294-3
Tel: 0287-78-7833 Fax: 0287-78-6627
<http://www.artbiotop.jp/> E-mail: artbiotop@nikiresort.jp

観月会

月夜の散歩に月のお茶、話と音とに耳を澄ませます。

毎月、満月の夜の森を散歩し、ゲストのお話と音楽を楽しむ会です。屋台メニューが並ぶホワイトリムジン屋台もオープン。ご宿泊なしでもご参加可能、是非ご来館ください。ゲストは決定次第HPなどでお知らせいたします。

第四夜 10月4日(日) / 第五夜 11月3日(火)
と き: 19:00~22:00頃
と ころ: アート・ビオトープ那須(レセプション集合)
参加費: 2,000円(一般予約) / 2,300円(一般当日) / 1,600円(宿泊ゲスト)

お問い合わせ、お申込み
アート・ビオトープ那須 0287-78-7833

キキョウ(秋の花?)

キキョウはキキョウ科キキョウ属に属し、東アジアにただ一種キキョウがあるのみで、珍しい植物です。口の広い鐘状の大きな花を横向きに付け、端正な姿が愛されて来ました。キキョウ色と呼ばれる青紫の美しい花は、幾通りにも凶案化され家紋になっています。食用になる事は忘れられましたが、根は去痰などの漢方薬で、年始の屠蘇散の中にも入っています。和名は漢名(桔梗)の日本読み(キキコウ)に由来すると言います。

キキョウと言えば秋のイメージですが、全国各地に“盆花”という方言が残っているのを見ても、むしろ夏の花でしょう。園芸種はさらに早く咲き、英国から里帰りした“マリエシー”は五月頃、“五月雨ギキョウ”などは六月です。七月咲きを遅咲きと呼んでいます。不思議と秋咲きの品種は見当たりません。秋の花のイメージは山上憶良の“秋の七草”の影響でしょうか? 八月八日頃を立秋と見た感性の歴史によるものでしょうか?

野生のキキョウは千草の中で点々と咲く風情ある姿が印象的ですが、小豆島では芝草の混じる砂礫地などにもキキョウがあります。厳しい環境と折り合っている植物の生活は、心に映るほど過酷ではないようです。小柄でたくましい荒地のキキョウは、島の地形に似つかわしい野趣に溢れて、又良いものです。

八代田 素樹 [やしるだもとき]
小豆島・洲崎在住



大野綾子氏作品が、土庄町千軒に設置される。

4月より2ヶ月、土庄町にて滞在制作していた「アート・ビオトープ小豆島第1回AIR作家・大野綾子氏(東京在住)」がプログラムを終え、完成作品「海に隠す」が土庄町千軒の町道・横広場に設置されました。

滞在中2回のワークショップでは、「地産の花崗岩」を用い島の子供たちと親しみました。

【AB小豆島富田】
*大野綾子AIRにご後援、ご協賛、ご協力頂き御礼申し上げます。

ご後援「土庄町」
ご協賛「セメンタイン株式会社」「ホルベイン工業株式会社」「ホルベイン画材株式会社」
ご協力「株式会社イシイ」「小豆島石材開発株式会社」「NPO法人オリーブ生活文化研究所」

第二弾は、染織の稲垣有里氏。

アート・ビオトープ小豆島AIRプログラム2人目となる染織作家・稲垣有里氏(静岡在住)が七月二十六日来島し、早速制作にかかりました。用意していた「オリーブ」の葉が、稲垣氏の手にかかり、様々な色へと変わっていきます。八月九日に開催された体験ワークショップ「オリーブで染めよう」には18名が参加、それぞれの色に染め、完成時にはたくさんの方の歓声が上がりまし

た。プログラム終了時には、オリーブを用いた染色資料が寄贈されました。稲垣氏のAIRを通して、染色材料としてのオリーブの可能性が広がりました。これから小豆島に「オリーブ染め」が広まり、展開していくことを願っています。

【NPOオリーブ生活文化研究所 柳生】
*稲垣氏の作品は、土庄町図書館で展示されAB那須に巡回されます。



Event Information

Art Biotop 那須
0287-78-7833
<http://www.artbiotop.jp/>

秋の陶芸ワークショップ
10月17日(土)「植物」置物や花器など
11月14日(土)「音・色」カラフルな上絵具を用いてお皿に装飾
13:30~17:00 (休憩をはさむ)
講師: 安藤 麻衣子 アート・ビオトープ那須 陶芸スタジオ
料金 6,300円(税込・一作品の焼成費込・送料別)

「観月●会」
第四夜 10月4日(日) / 第五夜 11月3日(火) 19:00~22:00頃
アート・ビオトープ那須(レセプション集合)
参加費: 2,000円(一般予約) / 2,300円(一般当日) / 1,600円(宿泊ゲスト)
満月の夜、森を散歩し、ゲストのお話と音楽を楽しむ会です。

「2009AIRプログラム・伊藤岳ワークショップ&スライドレクチャー」
第1回 10月25日(日) 10:30~ *親子対象
【親子でガラスのかたちをつくってみよう】
-ねんどのようなワックスでかたちをつくらせて、ガラスにしてみよう
第2回 11月29日(日) 13:30~ *親子対象
【親子でガラスの手形をつくってみよう】
-砂場遊びのようにかたちをつくらせて1200度で溶けているガラスをながしてみよう

●スライドレクチャー 11月29日(日) 10:30~ 約1時間
【日本のガラス感とヨーロッパのガラス感】
※料金については、お問合わせください。

「ホワイトリムジン屋台」 11:30~14:30営業 (不定休)

とちぎ蔵の街美術館
0282-20-8228

9:00~17:00(入館は16:30まで) 月曜休館(9/14・24・28・10/5・13・19・26・11/2・4)
交通機関: 電 車/JR両毛線栃木駅、東武日光線栃木駅から徒歩15分
自動車/東北自動車道 栃木I.C. から10分

9月8日(火)~11月8日(日)

秋の特別企画展 **「チェコの絵本と原画展」**
- チャベック、トゥルンカから21世紀の作家まで -
入館料: 一般/高・大学生 500(300)円
小中学生200(100)円

身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている方とその介助者1名、未就学児は無料
()内は20名以上の団体料金

関連イベント
「第三回蔵の街かど映画祭」
「チェコアニメ上映会」
(上映予定作品) イジー・トゥルンカ「電子頭脳おばあさん」など
日時: 10月10日・11日 各日午前・午後各1回
会場: とちぎ蔵の街観光館2階多目的ホール
※別途映画祭チケットが必要です

GALLERY 卍 SATSU
03-3221-4220
<http://www.satsu.jp/kudan/>

11:00~19:00 月曜休廊

【展覧会】
9月16日(水)~10月11日(日)
「山のシュレ2009レポート展」
- 『ロマン主義実践の夏』を振り返って -
「山のシュレ2009」の印象に残る様々なシーンを写真と紹介文とともに振り返ります。
*「山のシュレ2009」全容をまとめた小冊子を10月3日発売予定。

10月21日(水)~11月8日(日)
アート・フェスタ那須参加企画
「本のミクロコスモス」巡回展
「山のシュレ2009」の講師陣が選んだ3冊を選書コメントと合わせて展示します。
二期倶楽部からの巡回展です。

【イベント】
10月3日(土) 17:00~18:30
「山のシュレ2009レポート展」関連イベント
「劉宏軍アンコール 秋の奏で」
参加費2000円(税込み、ワンドリンク付き)
当日19:30から、二期倶楽部広尾でお食事会もごさいます。
最終日に素晴らしい演奏を披露していただいた劉宏軍さん。古楽の音色を聞きながら「山のシュレ2009」での出会いを広げる交流会です。

中山春日神社奉納 農村歌舞伎

約300年前から小豆島で盛んに行われている農村歌舞伎が、中山の舞台上で上演されます。

日時: 10月11日(日) 17時~21時
入場料: 無料
*見物客は青天井の芝生にむしろ敷き!

海の大茶会 ひと味違う島めぐりツアー
- 高松発~女木島・小豆島・直島をめぐる -

日時: 11月8日(日) 茶席: 9:00~15:00 点心席: 11:00~14:00
海の大茶会参加費: 7,000円[点心席(一席)+茶席フリー+催し物]
財団専用のシャトル船・シャトルバス代込み・別売コンサート券(室内楽コンサート1,000円)
主催: 財団法人中條文化振興財団
<http://chujo-zaidan.or.jp/prd/chashitsu/aun2009.html>
お問い合わせ・お申し込み **087-826-3355**